



## 【自己紹介】

○後藤 至誠 (ごとう しせい)

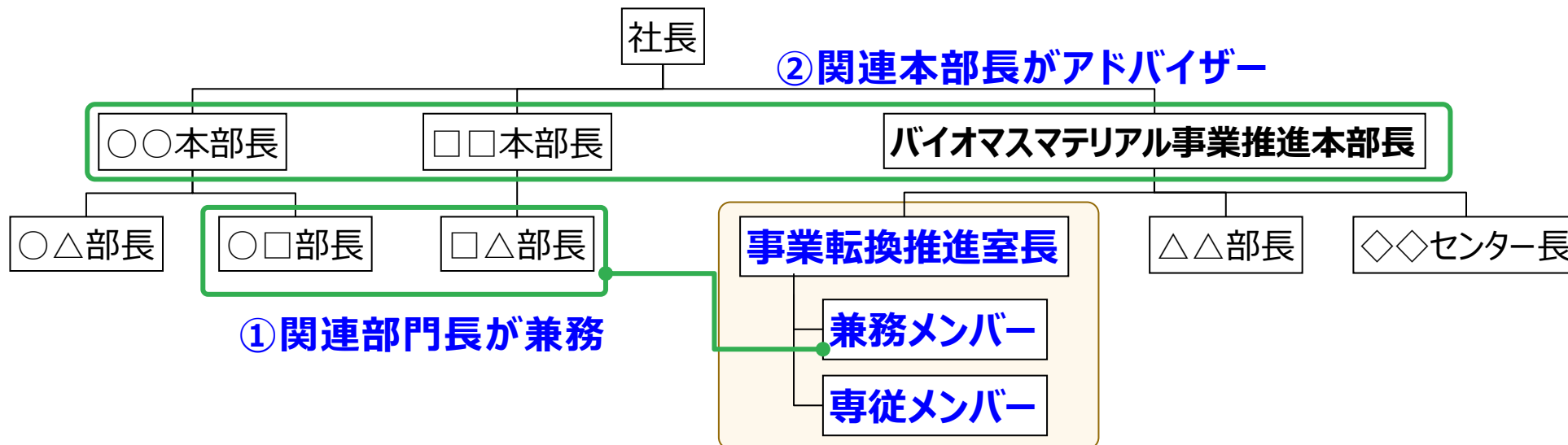
○日本製紙株式会社

バイオスマテリアル事業推進本部 事業転換推進室長

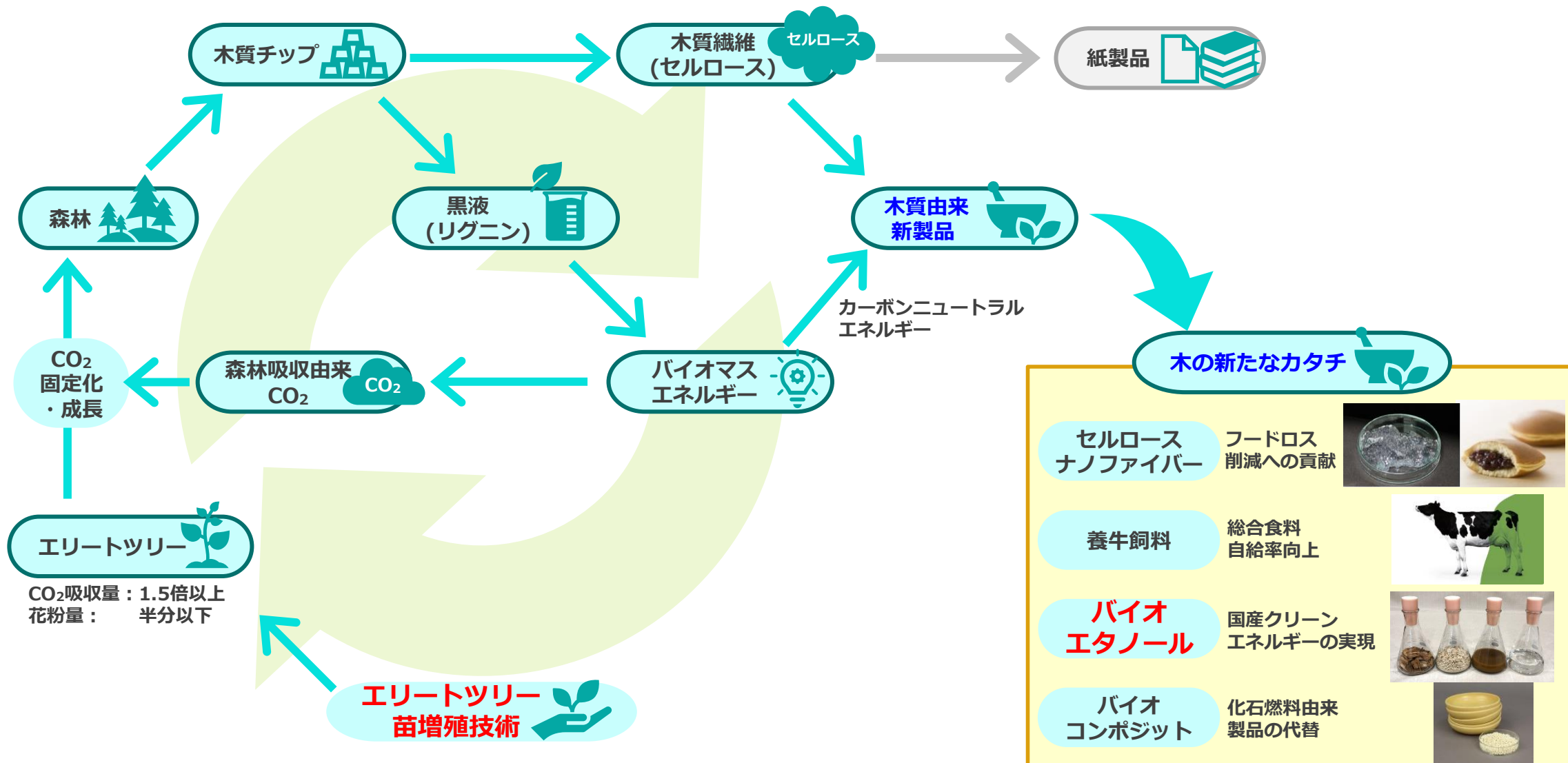
○主に木質バイオマスを用いたバイオリファイナリー(※)、カーボンリサイクルなど、カーボンニュートラルに資する新規ビジネス化・事業化検討の取り纏めに従事

新規ビジネス創出・事業転換の加速に向けたタテ串・ヨコ串・ナメ串を刺して実行する組織①②

※バイオマスを原料としたバイオ燃料・化学品製造



## 木質バイオマスの新たな利用と森林資源循環の加速



## 木質バイオマスを原料とする国内初のセルロース系バイオエタノール 商用生産およびバイオケミカル製品への展開に向けた検討



ポイント：

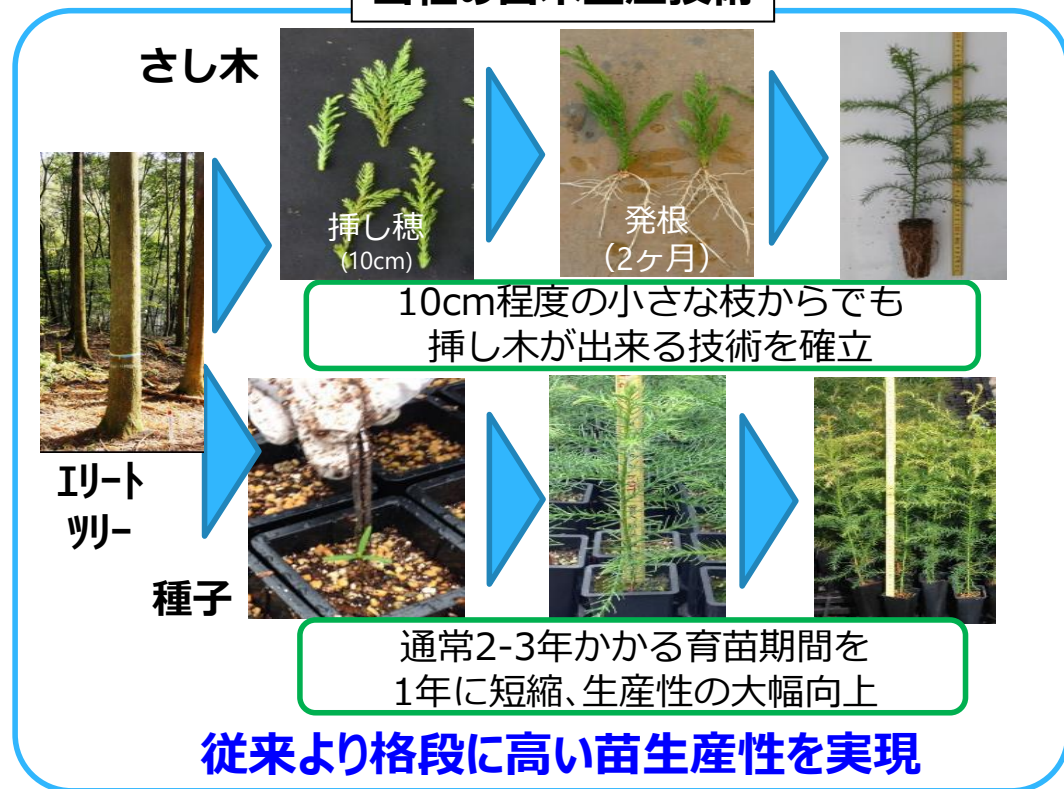
- 国産材を利用
- 第二世代エタノール（E2G）  
→ 食糧競合の無い非可食原料利用

国産SAF官民協議会/認証TGの  
パイロット事業者として  
CORSA適格燃料への適合検討中

# テーマ1：農林業の巻き込みー地元根付くエリート苗事業



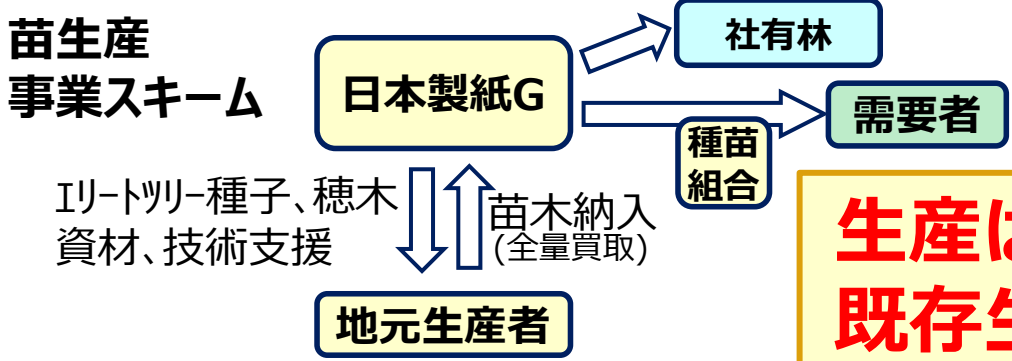
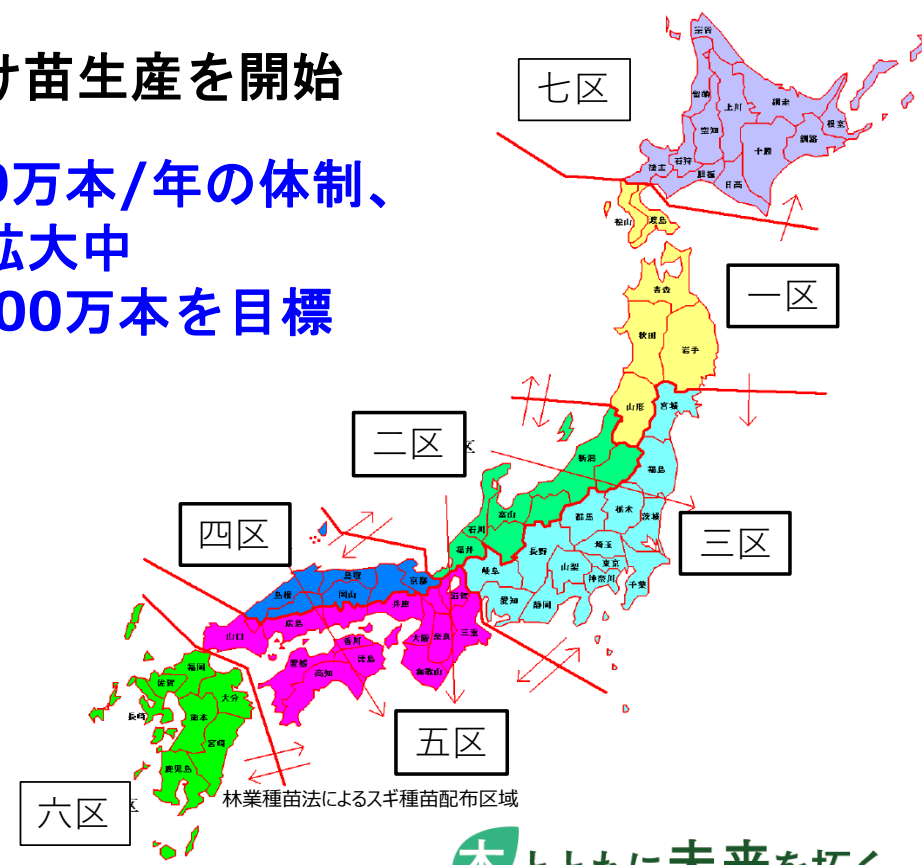
## 当社の苗木生産技術



秋田(一区)、静岡(三区)、鳥取(四区)、  
広島(五区)、熊本・大分(六区)で  
「特定増殖事業者」の知事認定取得

各地の生産体制を整備、  
社有林 } 向け苗生産を開始  
外販 }

2023年末160万本/年の体制、  
需要に応じて拡大中  
⇒2030年1,000万本を目標



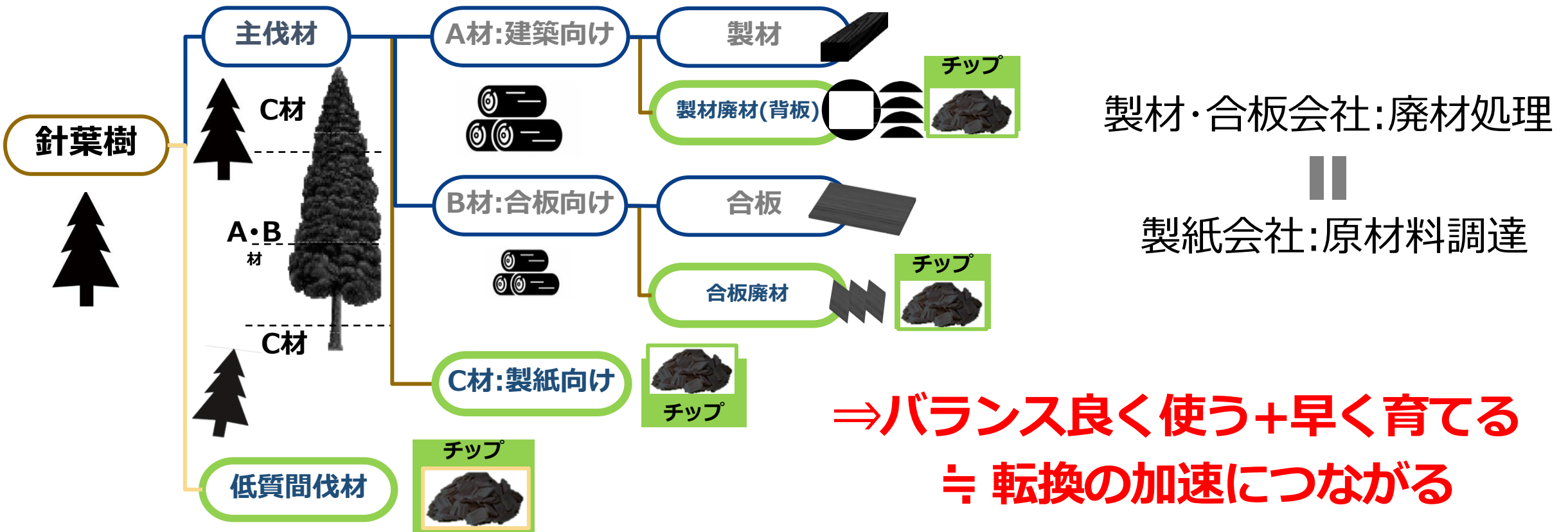
**生産は地元に委託  
既存生産者との協業**



# 国内森林資源のカスケード利用の拡大と資源循環の加速

⇒ バイオリファイナリー構想(バイオタール・リトツリなど)の実現

## 国産製紙原料は副産物・廃材主体





## オイルリファイナリーに対するバイオリファイナリーの特徴

- 多様なバイオマス原料
  - ・可食(トウモロコシ・サウヰト)
  - ・非可食(農業残渣・森林残渣・木質)
- 集荷の課題
  - ・嵩や季節性(藁・農業残渣など)
  - ・各地に分散

⇒大規模に集荷しようとするすると輸送コストやLCAが高くなる

→多様な原料に対する地産地消のサプライチェーンの構築と利用に対する理解・協力が重要

⇒SAF向け木質バイオエタノールの認証取得を通じて、日本の森林資源の活用の国際的な認知を得たい